東京新聞2013年11月18日

★超高速計算機に前進

超高速の計算を可能にする「量子コンピューター」の実現に大きな前進となる技術を、古沢明東京大教授（量子光学）らが開発し、十七日付の科学誌ネイチャーフォトニクス電子版に発表した。

光の粒（光子）を計算に使うための「量子もつれ」と呼ばれる現象を従来の千倍以上の規模で作り出すことに成功した。古沢教授は「もつれの規模としては、実用レベルに達したと言える」と話している。量子もつれは、光子や微小な粒子で発生させることができる現象で、複数の粒子が離れたところにあっても互いに影響しあう強い関係を保った状態。もつれの数が多いほど複雑な計算が可能になる。